

SP II β 「DXプラン」発表ルーブリック

- 班の代表者1名または2名で5分間のプレゼンテーションを行う。
- プレゼンテーションは1スライド1メッセージを心がけ、1枚1枚のスライドをポスターのように美しくデザインする。
- プレゼンテーションは原稿を見ずに行い（作成はしても良い）、スライドが主役ではなく、プレゼンターが主役となるように心がける。

項目	評価基準			
	1:★ 努力が必要	2:★★ 目標の一部到達	3:★★★ 目標に到達	4:★★★★ 目標以上に到達
1 オープニング	オープニングが意識されていなかった。	オープニングは意識されていたが、聴衆のほとんどが自分ごと化できなかったのではないかと感じた。	オープニングが意識されており、聴衆の一定数が自分ごと化できたのではないかと感じた。 「自分ごと化」…自分と関係のある聴く価値のあるテーマであると認識すること	オープニングが意識されており、聴衆の多くが自分ごと化できたのではないかと感じた。
2 問題の重要性 (リサーチクエスト 設定の根拠①)	「誰のどんな課題を解決するか」及び、その問題解決の重要性が伝わるデータ・事実が示されていないかった。	「誰のどんな課題を解決するか」及び、その問題解決の重要性が伝わるデータ・事実が示されていたものの、解決する価値のある問題であるとは思えなかった。	「誰のどんな課題を解決するか」及び、その問題解決の重要性が伝わるデータ・事実が示されており、解決する価値のある問題であることが納得できた。	「誰のどんな課題を解決するか」及び、その問題解決の重要性が切実に伝わるデータ・事実が示されており、解決することに大きな価値があるという認識が深まった。
3 問題が解決できていない理由 (リサーチクエスト 設定の根拠②)	既存のサービスが説明されていなかった。	既存のサービスが説明されているが、既存のサービスで問題が解決できていない「理由」の調査・分析が不十分であると感じた。	既存のサービスが説明されており、既存のサービスで問題が解決できていない「理由」の調査・分析がなされており、説明が納得できた。	既存のサービスが説明されており、既存のサービスで問題が解決できていない「驚くべき理由」(一般には認識されていない理由)に気づかされた。
4 解決策の提示 (仮説①)	このプランによって「ユーザーの現状がどのように変わるのか」が説明されていなかった。	このプランによって「ユーザーの現状がどのように変わるのか」が説明されていたものの、画像・動画等が示されておらず、イメージしにくかった。	このプランによって「ユーザーの現状がどのように変わるのか」が画像・動画・デモ・寸劇等で説明されており、ユーザーの体験の変化がイメージできた。	このプランによって「ユーザーの現状がどのように変わるのか」が画像・動画・デモ・寸劇等で説明されており、ユーザーの体験が大きく変化することに関心した。
5 解決策の新規性 (仮説②)	このプランの新規性が説明されていなかった。	このプランの新規性が説明されているものの、既存のサービスとの違いがよく分からなかった。	このプランの新規性(これまでにない新しい視点や組み合わせ)が説明されており、既存のサービスとの違いが理解できた。	このプランの新規性が説明されており、独創的なアイデアに驚かされた。
6 解決策がうまくいく根拠 (仮説を設定した根拠①)	このプランが「うまくいく根拠」の説明がされていなかった。	①うまくいっている類似の事例の調査②このプランがユーザーに求められている社会的背景の分析③潜在的なユーザー数や市場規模の見積もり等が説明されているものの、根拠や関連性が弱く、この事業がうまくいく可能性が高いという主張が理解できなかった。	①うまくいっている類似の事例の調査②このプランがユーザーに求められている社会的背景の分析③潜在的なユーザー数や市場規模の見積もり等が説明されており、この事業がうまくいく可能性が高いという主張が理解できた。	①うまくいっている類似の事例の調査②このプランがユーザーに求められている社会的背景の分析③潜在的なユーザー数や市場規模の見積もり等が説明されており、事例や分析、見積もりが的確で、この事業がうまくいく可能性が高いという主張に大いに納得した。
7 事業が継続できる根拠 (仮説を設定した根拠②)	「事業が継続できる根拠」が説明されていなかった。	資金調達や収益化の方法等が説明されるものの、計画に無理があり、この事業が継続できるという主張が理解できなかった。	資金調達や収益化の方法等が説明されており、この事業が継続できるという主張が理解できた。	資金調達や収益化の方法等が説明されており、無理のない計画で実現可能性が高く、この事業が継続できるという主張に大いに納得できた。
8 計画実現へのアクション (検証方法の進行度)	アイデアを実現するための計画が示されていなかった。	アイデアを実現するための計画は示されていたが、アイデア実現のために特に行動していないかった。	アイデアを実現するための計画が示され、①簡易的な実験②モックアップ(アプリの画面等、見た目だけ作った試作品)の制作③インターネットで集めた2次データの分析④関係者へのインタビュー等、アイデア実現のために1歩踏み出していた。	アイデアを実現するための計画が示され、①本格的な実験②プロトタイプ(実際に動作する試作品)の作成やユーザーテスト、③自分たちで取った1次データの分析④内外の関係者と実現に向けた調整、実行等、アイデア実現に向けて大きく行動していた。
9 全体評価	このプランの内容がよく分からなかった。	プレゼンテーションおよび、以下の評価の観点から、このプランによってもたらされる未来に、あまり可能性を感じなかった。	プレゼンテーションおよび、以下の評価の観点から、このプランによってもたらされる未来に、可能性を感じた。	プレゼンテーションおよび、以下の評価の観点から、このプランによってもたらされる未来に、大きな期待を感じた。

<評価の観点> X: トランスフォーメーション(社会を変えるためのアイデア・行動)は必須、D: デジタルは必須ではないが、意識する

- ① 主張の一貫性…どれだけ、根拠に基づいて論理的に、一貫性のある主張を展開しているか
- ② 新規性…どれだけ、これまでにない新しい視点や組み合わせによるアイデアであるか
- ③ アイデアの有効性…どれだけ、目的(課題)に対してアイデア(解決策)が有効であると考えられるか
- ④ 実現可能性…どれだけ、実現できる可能性が高いと感じられるか
- ⑤ アクション…どれだけ、アイデアの実現に向けて行動しているか

※①～⑤の項目を各4点満点(20点満点)で評価する。